



## 花だより 鳥だより



ポロト案内舎 2021年 3月 111号

週末ごとに低気圧がやってきました。雪にならず冷たい雨。雨のお陰で早々と雪がとけ、4月になる前に案内舎の敷地から無くなりました。ポロト沼も普段より早く氷が消え、カモたちが集まっています。



### ポロト沼のタンチョウ 復活なるか？



8日にタンチョウのカップルがポロト沼に帰ってきました。まだ沼には氷が一面に残っている早い時期です。海に近い橋の周辺だけは氷がなく、ここで食べ物を取っています。カップルの1羽にはリングがあります。番号は246。そう、今年の春に縄張り争いに敗れ、ポロト沼から追われたオスです。冬の間、近くの牧場で過ごしていたようです。起死回生の機会を虎視眈々と狙っていたのです。地の利を生かし、ライバルより早くポロト沼に戻り、優位に立とうとしています。



## 春の嵐が届けたもの



3日、低気圧の接近で大荒れの天気になりました。はじめは雪、のちに曇りに代わり、雨が混じるようになって夜を迎えました。そして一夜明けると太陽が顔を出し、外はキラキラの世界になっていました。湿原も森も庭もすべて光り輝いています。ヨシの1本1本、ハンノキの枝の一つ一つが氷でコーティングされ、日の光を反射しているのです。草も木の枝も、氷の重みに耐えるように垂れ下がり、風が吹くたびに、シャラシャラと音を立て揺れます。普段見慣れた何気ない草や木が、宝石のように光り輝いていました。宝石は目を向けるところ、どこにでも存在します。自然が作った芸術作品です。そして、自然はこの宝石を惜しげもなく消していきました。



## エゾシカにも春が来た



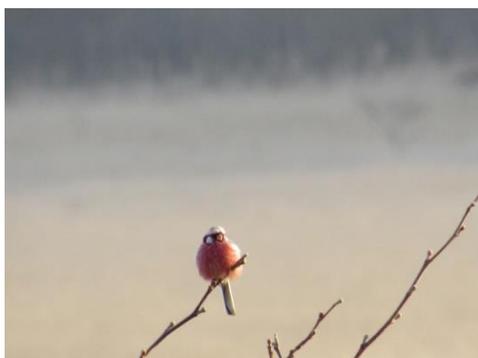
厳しい冬を乗り越えた者にだけ訪れる春。ポロトの湿原に雪が消えると、たくさんのシカが現れるようになりました。夕方には、まだ氷が残る沼の上で、若いオス同士が角を絡めて遊んでいます。どこかのんびりした雰囲気は漂っているのは、冬を乗り越えた安堵からでしょうか？

雪が消えたササ原の丘では、メスジカの群れがゆっくり休んでいます。牛と同じ反芻動物ですから、草を食べた後は座り込んでゆっくり口を動かし、食べた物をもう一度嚙んでいます。仲間がいるので、安心して眠り込むシカもいます。

雪が消えた大地からは、緑の草が出てきます。もう木の皮を齧って餓えを凌ぐ必要はなくなりました。新鮮な青草をいっぱい食べ、メスジカは出産の体力を蓄えます。



## 帰ってきたぞ



色のなかった世界に赤が戻ってきました。ベニマシコの赤です。29日に案内舎の庭に帰ってきたベニマシコ。長旅で空腹なのか、地面でせっせと食べ物を探していました。その後、枝にとまって一休み。

30日の早朝には、湿原から「フィ、フィ」という、特徴のある声が聞こえてきました。



## さあ、はじけるぞ



3月の後半になると、植物たちも目覚め、活動を始めます。フキノトウは日当たりのよい斜面に薄緑の姿を現し、いち早く雪のとけた南斜面ではフクジュソウが黄色い花を開いています。

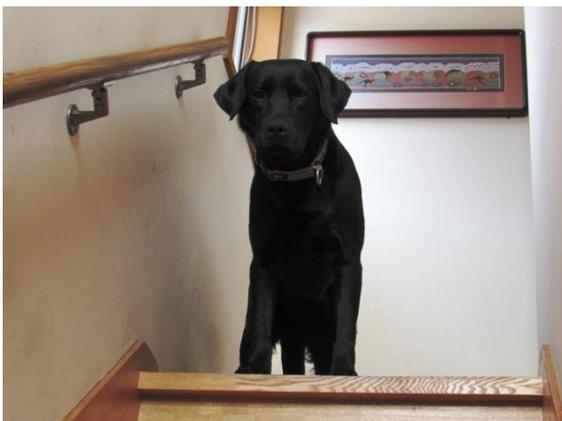
ハシブトガラのおさえずりに誘われて頭上に目をやれば、木々が赤く変身していました。ハンノキの雄花が色づいています。目を凝らせば黄色い花粉がひも状に伸びた雄花から溢れています。もう花粉が風に乗って飛び交っているようです。



昨年、早く芽吹き、感の戻りに会って凍ってしまったヤナギは、今年は順当に春が訪れてから芽を膨らませています。日に日に白い部分が広がっていくのがわかります。花が咲き始めるまであと少し。ヤナギの淡い花は春の色。ハシブトガラやヒガラも花が咲くのを待っています。



## 一年たちました



春がめぐり、ポロが来てから1年が経ちました。顔はまだ子供っぽいのですが、体はすっかり大きくなりました。冬の間は外で雪遊びをたくさんしました。沼を渡って湿原に行き、シカの骨を拾ってきたりと、逞しくなりましたよ。苦手の階段も上まで登れるようになりましたが、まだ降りられません。重たいのに！